

イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i> (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧Ⅱ類)		スイカズラ科
選定理由	生育地が限定されているうえ、個体数が少ない。	写真(高橋弘)
形態の特徴	葉は倒卵形から長楕円形、長さ2.5-6cm、幅0.8-3cm。葉柄の基部は膨らんで対生2つが合着する。花は長さ1-3 mmの総花柄の先端にある1対の苞につく。小花柄は極めて短いため、1対の小苞は苞と同じ節から出るように見える。花冠は赤味を帯び、裂片は4個、筒部の長さは8-14 mm。	
生態的特徴	明るい岩場に生育する落葉低木。花期は5-6月。	
分布状況	日本に固有、本州の中部以西、四国、九州に分布する。岐阜県では県南西部の標高300-1000mに見られる。	
減少要因	開発による生育地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘